

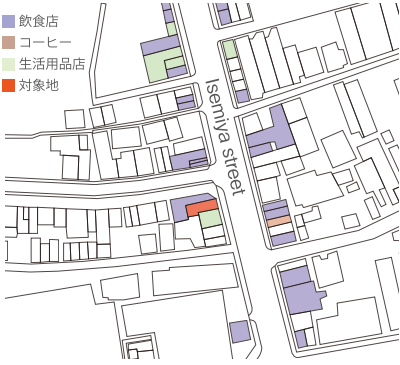
審査委員特別賞

玉井 双喜
島根大学

【作品名】
ミセのイエ
～街開きの収納～



伊勢宮町のこと



伊勢宮町での住まい方を考えると、周りに飲食店があるので大きいキッチンが暮らしの上で必要ではなく、街の特徴である「商い」と関係する住まい方が必要である。

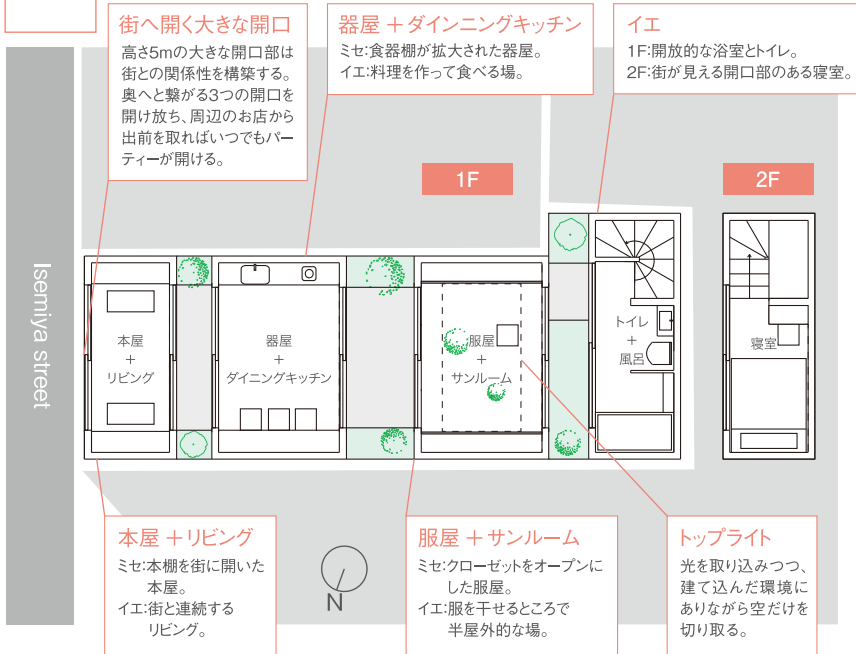
街の建物のこと



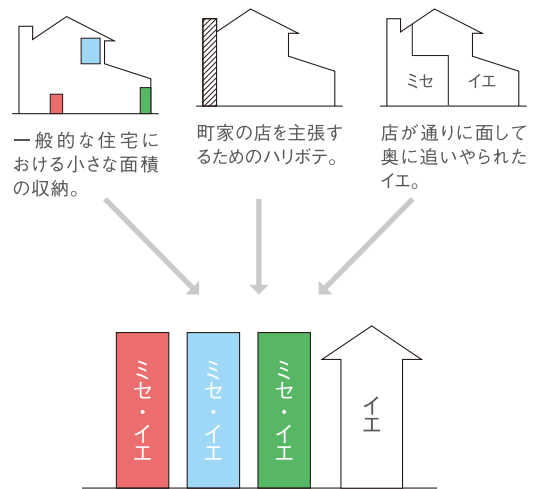
対象地に隣接する敷地の建物にもハリボテとイエがあり、もう片方は飲食店となっている。伊勢宮町の平均的な敷地である。



平面図



ダイアグラム



収納の拡大とハリボテの延長、分割の操作を行うことでミセとイエが一体となり、分割されたボリュームの隙間から明るさを取り入れることが可能となったイエ。

設計コンセプト

私たちは普段、家に住むと同時に街に住んでいる。しかし、私たちは街に暮らせているのだろうか。そこで、私は、街で暮らすための収納を街へ開き、暮らしながら商うイエを提案する。松江市の伊勢宮町に位置する店舗併用住宅である。敷地の間口が狭く、奥に長い町家の形状であり、左右に隣接する建物ボリュームは6mほどある。この敷地に対して持続可能で楽しい住まいを実現するため伊勢宮町をリサーチしていく。伊勢宮町の周囲には飲食店が多数あり、

またそれらのお店が仕入れる鮮魚店なども立ち並ぶ商店街である。一方で、夜になると仕事帰りのサラリーマンで賑わう歓楽街でもある。また商店街という形式の伊勢宮町では店の入れ替わりがよくあり、その都度、店が更新された痕跡が残っている状態である。平入りを隠す四角いハリボテ状のファサードも痕跡のひとつで、街のひとつの特徴にもなっている。ハリボテ(店部分)の背後には住まいがあり、通りに面していないかつ周辺が立て込んだ環境のため太陽の光もあまり入らない住環境である。

街の痕跡として潜在している「ハリボテ」と街の特徴である「商い」との関係性を持たせるため、一般的な住宅における小さな面積の収納を拡大し、ミセとして街に開き楽しい住まいを創造する。また、ハリボテの延長、分割の操作を行うことでミセとイエが一体となる。加えて分割されたボリュームの隙間から明るさを取り入れることが可能となる。街のリサーチから住宅の図式、形状を導くことで街に適した持続可能で楽しい住まいが建ち上がるのではないかと考える。

審査委員講評

実在する商店街、松江市伊勢宮町をどう生かすか、という提案です。今、私たちが美しいと感じる歴史的町並みも、その昔にこのようなアイデアをたたき台に議論を重ね、生まれたのでしょうか。未来の伊勢宮町はどんな姿になっているか楽しみです。